

国際政治学者としての一
番の勝負時は、1985年
から4年近くを費やした「戦
争と平和」の執筆だった。
当時、国際政治を体系的に
とらえた「教科書」が日本
語版では存在しておらず、
出版社から「海外での長い
経験を生かしてまとめてみ
ては」と勧められた。

市川 高松 桜 東京生まれ。東京・桜蔭高、
上智大外国語学部卒。米エール大で政治学の修士、博士号。2002~04年国連軍縮
会議特命全権大使。05~09
年衆院議員、05~06年少子
化・男女共同参画担当相。
10年から日大客員教授。10
年7月、千葉選挙区から参
院議員に初当選。政治学者
の夫・孝さん、娘2人と4
人暮らし。

国際政治学者 猪口邦子さん 59

「戦争と平和」専念の4年

はずさまじい集中力が必要
で、学生以外は「面会謝絶」
とし、ひたすら本の山と格闘
した。

当時は学者として名が売れ
始め、テレビ朝日の「ニュー
スステーション」などテレビ
出演やコメント取材が殺到し
ていた。以前は女性がモノを
聞かれることなどなかった
が、ようやくそんな時代がや
つてきていた。それを自分で

遮断して良いものなのか、自
問自答した。しかし、「5分
間だけ」と取材の電話があっ
ても、「執筆中なので」とガ
チャン。この本の完成は、国
際政治学者としての責任だと
意識していたからだだった。

本を書き上げ、世に問うた
時は、「どうだ」という思い
だった。89年の吉野作造賞受
賞で世間に評価され、「そう
か」と納得。この時が、学者

としての一つの到達点だっ
た。

10歳まで市川市で暮らし、
損害保険会社員の父の転勤で
15歳まで、ブラジル・サンパ
ウロで過ごした。帰国子女と
して入った高校で国語を教え
てくれたのが赤星秀子先生だ
った。尊敬する先生がある時、
自身が「戦争未亡人」で、女
手一つで子供を育ててきたこ
とを明かしてくださった。「こ

知的好奇心が力

昨夏、参院選千葉選挙区で

厳しいどぶ板選挙をやり抜い
た直後、疲労困憊の様子なが
ら、「政治学者として、日本
の選挙システムのフィール
ドワークに取り組んだつも
り」と感想を漏らし、その
体験を本にまとめたいと話
していた。公務に忙しく、
執筆の時間がとれないそう
だが、すさまじいほどのバ

んな立派な女性を不幸にする
構造を解明したい」と少女な
がらに思ったことが、「戦争
と平和」というライフワーク
につながっている。

学生だった当時、国内で国
際政治学の道に進む女性はほ
とんどいなかった。若手でも
かも女性の学者が研究成果を
発表する機会など、ほとんど
与えてくれなかった。初期の
論文はすべて英語で書いて米
国の学会で発表し、研究の舞
台も欧米を選んだ。日本で順
番を待っていたら、「なでし
こパワー」は生まれなかった
と思う。

イタリティーは、すべて知
的好奇心が原動力となってい
るのだと思う。

猪口さんが大学4年で入会
した日本国際政治学会は当
時、女性会員はほとんどいな
かったという。現在は4分の
1を女性が占め、今年度から、
東大大学院の古城佳子教授が
初の女性理事長を務めてい
る。猪口さんはまさに、この
分野で女性に道を開いた人だ
った。

「日本で順番を待っていたら、道を切り開くことは
難しかった」と語る猪口さん（参議院議員会館で）

